

2. 親への提言

日本

大人が子どもと対等な関係で触れ合いを重視し楽しい体験を共有・享受する家庭の子どもの語彙力が豊かになり小学校の学力（考える力）を向上させることが明らかになった。親がよく本を読み、家族で団欒の時間を大事にし、親子の会話を楽しむ雰囲気の中で子どもは内発的な知的好奇心を発揮して環境探索を行い主体的に学ぶことができる。「しつけスタイル」は親の子ども観や子どもへの関わり方を変えることにより、制御可能である。研究結果を踏まえて親たちに子育て 10 カ条を提案したい。

「子育て 10 カ条」

- 第 1 に、親子の間に対等な人間関係をつくること
- 第 2 に、親は子どもの安全基地になること
- 第 3 に、子どもに「勝ち負けのことば」を使わない
- 第 4 に、子どものことばや行動を共感的に受け留め、受け入れる
- 第 5 に、他児と比べず、その子自身が以前より進歩したときに承認し、誉める
- 第 6 に、裁判官のように禁止や命令ではなく、「～したら」と提案の形で対案を述べる
- 第 7 に、教師のように完璧な・詳細な・隙のない、説明や定義を述べ立てない
- 第 8 に、子ども自身に考える余地を残す働きかけをすること
- 第 9 に、親は「待つ」「みきわめる」「急がない」「急がせない」で子どもがつまずいたときに支え、足場をかけ、子どもが一步踏み出せるように、わきから助けてあげる
- 第 10 に、子どもと共に暮らす幸せを味わおう

★子ども自身で考える余地を残すことばかけのもとで、子どもの考える力が育つ。

★本をよく読む家庭、家族の会話が豊富な家庭で子どものことばが増え、学ぶ力も豊かになる。

★子育てに「もう遅い」はない！

⇒待つ・見きわめる・急がない・急がせないで、子どもの探求するところを大切に！

本研究の結果、幼児の読み書き能力は 5 歳になると大多数が読み書きできる水準に達し、それ以前にあった性別、所得水準による差はなくなることが分かった。しかし、高い水準の読解に影響を及ぼす語彙力では、年齢が上がっても、性別や所得水準による差が依然として残っており、特に所得による差は直接ではなく、所蔵図書数による間接的な効果として表れ、本に接する機会を多く与える親の役割の重要性を示唆する。したがって、親は単純な読み書きのような記述的な側面だけに注目するのではなく、より長期的で、持続的に読解及び学習能力に影響を与える可能性のある語彙力を助長させる方法に注目する必要がある。本研究での結果に基づいて以下のように親に提言する。

1. 養育を楽しみ、‘私は良い親になれる.’と自信をもち、良い養育方法を学び、改善させようと努力する（良い養育法については、本研究の結果を通して日本の提案を参考にする）。
2. 子どもの教育について、長期的で価値志向的な観点から臨む。すなわち、他の子より早く読み書きできることに注目するのではなく、本を楽しみ、本を通して新しい世界に接し、世界を知っていく楽しみ、自分の考えを文字を通して楽しんで表現できるように援助する。
3. 読み書き活動を家庭でも日常化させ、楽しい経験として幼児と一緒に参加する。
 - ・ 親自身が読み・書きと関連する活動に楽しく参加する。
 - ・ 日常から、または、子どもと一緒に遊ぶ中で自然に読み書きの活動に参加し、楽しむ。
 - ・ 家庭内で幼児のための多様な種類の本と十分な量の良書を用意する。
 - ・ 家の至るところに子どもための本を置いて、本に接しやすくする。
 - ・ 子どもが自ら文字が読めることができて、親が子どもに本を読んであげて相互作用することは必要である。
 - ・ 図書館で本を読んだり、貸し出したりする活動を子どもと一緒にこなう。
 - ・ 紙、筆記用具に接する機会を多く与え、なぞることから、お絵描き、意思を絵で表す、文字に進むまでに様々なチャレンジができるよう、子どもに機会を与え、子どもを励ます。

★無理な早期教育は子どもの育ちの阻害要因となる！

★本好きな家庭で子どもは伸びる！

★親の思いを押し付けず、子どもの主体性・内発性、学ぶ気持ちを大切に！

今回の調査の結果を振り返ると、3～5歳の幼児の読み、語彙と英語能力の発達に比べて、書き能力が社会文化的要因としつけスタイルから受ける影響がより少ないことが判明した。4歳男児の読み、語彙、英語力は女児よりも高い結果が得られた。

教育への投資額に比べ、親のしつけスタイルは子どもの、読み、語彙と英語能力の習得により強く影響しているかもしれない。子どもとよくコミュニケーションをし、子どもの気持ちに寄り添い、子どもと一緒に楽しい時間を過ごすというようなしつけスタイルは3歳および4歳の子どもの読み、語彙、英語能力の発達を促進する働きをもっている。また、子どものニーズを重視すると同時に、子どもに対して厳しく要求するというようなしつけスタイルは、5歳幼児の言語能力の発達に最も有利かもしれない。本研究の結果を踏まえて、親たちに「育児13カ条」を提案したい。

育児13カ条

- 第1に、男児の言語発達を重視する。「陰盛陽衰」（男性が弱くなり、女性のほうが強くなっている
*注：陰が女性で、陽が男性を表す）といわれる現在、男児に自信をつけさせる。
- 第2に、日常生活の中で子どもと口頭の言語遊びを楽しむチャンスをより多く持つ。
- 第3に、日常生活の場面の素材を有効に利用し、子どもとの間により多く言語によるコミュニケーションをとる。
- 第4に、現実の状況に合わせて、子どもの教育に適度に投資する。
- 第5に、日常生活において、子どもと感情を共有することが大事である。
- 第6に、子どもを可愛がると同時に、厳しく要求することも必要である。
- 第7に、どんなに忙しくても、子どもの成長に目をむける時間を作る。
- 第8に、子どもの人生の初めての教師になるために、親自身が自分を高めることを怠らないことが大事である。
- 第9に、家庭で蔵書を多めに置くなどの文化環境を作り出す。
- 第10に、親子共同読書の時間を確保する
- 第11に、子どもの発達レベルに合わせて書籍の種類を選び、絵本などを読ませたり、聞かせたり常にする。
- 第12に、子どもの発達や能力の伸びることに過剰な期待を持たない。
- 第13に、子どもの発達段階を知り、子どもの学習を無理に押し付けることを抑える。

★子どもに寄り添い楽しみを共有することで子どもは伸びる！

★親自身の成長が子どもの成長を促す！

★早期教育の行き過ぎは子どものことばや考える力の成長にとってマイナスになる！